

映画で学ぶ アサーティブコミュニケーション / 第1回

『コーダ あいのうた』授業ガイド

自分も大切、相手も大切——「自分もOK、相手もOK」

教員用・指導資料（対象：12歳以上／小学校高学年～中学生）

📄 本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	アサーティブコミュニケーション（自分も相手も大切にする伝え方）
教材映画	『コーダ あいのうた』（原題 CODA／2021年・アメリカ／監督：シアン・ヘダー）
対象	12歳以上（小学校高学年～中学生）。映倫PG12に対応した対象設定です
時間	標準90分（45分×2も可）。全編視聴・厳選クリップ・あらすじ紹介のいずれの構成も選べます（下記「内容への配慮」参照）
中心概念	3つの伝え方（攻撃型・受け身型・アサーティブ）／合言葉「自分もOK、相手もOK」
ねらい	「自分の気持ちを言ってい。でも相手の気持ちも大切にする」を、具体的な言い方とともに理解する
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／筆記用具／板書用の3タイプ表

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ レイティングと視聴方法

『コーダ あいのうた』は日本で映倫 **PG12指定**（12歳未満の鑑賞には保護者の助言・指導が望ましい）です。本教材は12歳以上を対象としていますが、家庭内の性的な話題を含む会話やや強い言葉づかいの場面があるため、学級の実態に応じて次のいずれかを選んでください。

- **全編視聴型**：12歳以上のクラスで、事前に配慮点を伝えた上で通して鑑賞する。
- **厳選クリップ型**：先生が事前に視聴し、家族の食卓・合唱・夢を語る等の場面を選んで提示する（配慮が必要な場面は避ける）。
- **あらすじ紹介型**：映画は視聴せず、本ガイド・解説ノートのあらすじで物語を伝え、アサーティブの学習を行う。

📄 著作権について

- 授業での上映（とくに複数クラス・全校など）には、**教育機関向けの上映権・配信の権利処理**が必要になる場合があります。配信サービスの個人向け契約では授業上映が認められないことがあるため、事前にご確認ください。
- 本教材の文章はすべてオリジナルです。ポスター・俳優写真・場面写真は使用していません。セリフを板書等で引用する際は短く、出典（作品名）を明記してください。

👉 ろう者・手話の扱いについて（大切な視点）

「耳が聞こえない＝かわいそう」という見方にしないことが重要です。映画では家族それぞれに仕事・夢・得意なこと・悩みがあります。「障害をテーマにする」のではなく「その人たちの日常を描く」作品として紹介してください。手話は独自の文法を持つ一つの言語であること、家族役を実際のろう者の俳優が演じたことにも触れると、学びが深まります。

3 アサーティブの基礎（先生用の予備知識）

3つの伝え方

人が意見を伝えるとき、大きく3つのタイプに分かれます。板書では下の表がわかりやすいです。

タイプ	自分	相手	ひとことで言うと
攻撃型（アグレッシブ）	◎	×	自分の意見を押し通す
受け身型（パッシブ）	×	◎	相手に合わせて自分をがまん
アサーティブ	◎	◎	自分も相手も大切にする

💡 ここを外さないで

アサーティブ＝「やさしくすること」ではありません。**イヤなことは「イヤ」と言ってよいこと**、ただし相手を傷つける言い方をしないこと。この2点は、はっきり伝えます。

言い方の型：「私は～と思う」で始める（アイ・メッセージ）

攻撃型

「あなたはいつも話を聞かない！」

受け身型

「……（何も言わない）」

アサーティブ

「私は、話を最後まで聞いてもらえるとうれしい」

「あなたは（You）」で責めるのではなく、「私は（I）」で自分の気持ちを伝えると、相手が受け取りやすくなります。「わたしは～」ではじめようと声かけすると定着します。

やさしい覚え方：3ステップ

1. 気持ちを伝える「わたしは～と思う」
2. りゆうを伝える「なぜなら～だから」
3. ていあんする「だから～してみない？」

例：友だちに「宿題を見せて」と言われたら

×「ぜったいダメ！」（攻撃型）／×「いいよ……」（受け身型）

○「わたしは自分で考えてほしいと思う。勉強になるから。いっしょに考えるなら手伝えるよ」（アサーティブ）

「5つの目」＝コミュニケーション探偵の視点

映画（またはあらすじ）を見る前に、次の5点を子どもに渡します。①本当は何を言いたい？ ②言えた？ がまんした？ ③どう伝えた？（怒る・泣く・黙る・質問・お願い等） ④相手はどう感じた？ ⑤自分ならどう言う？ —— とくに⑤が最も大切です。

4 90分授業の流れ（時間割）

※映画を視聴しない「あらすじ紹介型」の目安です。クリップを使う場合は該当箇所を差し替えてください。

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入クイズ	「友だちに遊びにさそわれた。でも今日は家で過ごしたい。どう言う？」子どもに数パターン出させ、3タイプの入り口にする。
10-25分	3つの伝え方	攻撃型・受け身型・アサーティブを板書の表で提示。鉛筆を勝手に使われた例で言い方を比べる。「イヤと言っていい」を強調。
25-30分	5つの目を渡す	「今日はコミュニケーション探偵になろう」。ワークシートの5つの視点を確認。
30-55分	物語にふれる (あらすじ／クリップ)	ルビーの物語をやさしく紹介。「家族」と「夢」の間でなやむ場面に注目させる。CODAの意味、ろう者の家族という設定も伝える。
55-65分	最初の共有	「一番心に残った場面は？」だけを全員に聞く（正解を求めない）。
65-78分	アサーティブに戻す	「家族だけOK／自分だけOK／両方OK」を板書で整理。ルビーはどれを選んだ？と問う。
78-88分	ワークシート記入	探偵シート⑥「自分ならどう言う？」と、ふりかえりの文を完成させる。
88-90分	まとめ	板書に大きく「自分もOK／相手もOK」。下記のまとめ言葉で締める。

板書例（中心の問い）

「この人は、なぜこの言葉を選んだのだろう？」——この一文を教室に掲げ、映画の会話も、子ども自身の生活も、同じ視点で考えられるようにします。

最後に先生が伝える言葉（例）

🌱 まとめ

アサーティブは「相手に勝つための話し方」ではありません。自分の気持ちを消さない。でも、相手の気持ちも消さない。「私はこう思う」「あなたはこう思う？」と、お互いの気持ちを大切にするための話し方です。

5 映画の背景知識

基本データ

原題／邦題	CODA／コーダ あいのうた
製作年・国	2021年・アメリカ（Apple TV+）。日本公開：2022年1月21日、配給：ギャガ
監督・脚本	シアン・ヘダー（監督・脚本を兼任）
原作	フランス映画『エール!』（La Famille Bélier／2014年）のリメイク。舞台をアメリカ・グロスターの漁師町に変えて再構成
舞台・家業	マサチューセッツ州グロスター（漁業の町）。家族は漁業を営む
CODAの意味	Children of Deaf Adults = 「ろう者の親を持つ、聞こえる子ども」。音楽用語で曲の結尾部も指し、タイトルに二重の意味

主なキャストと受賞

- エミリア・ジョーンズ（ルビー役）：イギリス出身。役づくりのため約9か月かけてアメリカ手話（ASL）・歌・漁を習得。
- マーリー・マトリン（母ジャッキー役／ろう者）：映画『愛は静けさの中に』（1986年）で、ろう者として初のアカデミー主演女優賞を受賞した俳優。
- トロイ・コッツァー（父フランク役／ろう者）：本作でアカデミー助演男優賞を受賞。ろう者の男性俳優として初の演技賞。
- ダニエル・デュラント（兄レオ役／ろう者）。

🏆 第94回アカデミー賞（2022年）

作品賞・脚色賞・助演男優賞の3部門を受賞。動画配信サービス発の作品が作品賞を受賞したのは史上初でした。

制作の姿勢

- ろう者の家族役を、実際のろう者の俳優が演じた点が大きな特徴。「障害を描く」より「その日常を描く」ことを重視。
- 監督のシアン・ヘダーはASLを学び、手話の専門家とともに、セリフを手話でどう表現するかを丁寧に検討した。

※上記の事実は公開情報（映画公式サイト＝ギャガ、Wikipedia、アカデミー賞の報道、ギネス世界記録等）で確認しています。細部の数値・エピソードには諸説ある場合があるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. ルビーは「家族を大切にすること」と「自分の夢」の、どちらか一つしか選べないのかな？

→ 二者択一に見える問題を、「両方を大切にする方法はないか」と考え直す視点へ導く。これがアサーティブの核心。

Q. 自分の夢を持つことは、わがままかな？

→ 正解を出さず、意見を交わすことが目的。「自分を大切にすること」と「相手を大切にすること」は両立する、と気づければ十分。

Q. ルビーが「歌いたい」と伝えられたのは、なぜだと思う？

→ 気持ちを言葉にする勇気、相手（家族）も大切に思っていること、の二つが両立している点に注目させる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- ③「言えた／少し言えた／言えなかった」に正解はない。登場人物の気持ちの変化に気づけているかを見る。
- ⑥「自分ならどう言う？」で、相手を否定しない言い方（アイ・メッセージ）が出ていれば大きな伸び。
- ふりかえり文で、「～と言ってもいい」と「～も大切」の両方が書けているかを確認する。

7 シリーズ全体像（発展）

本シリーズは、コミュニケーションの力を段階的に積み上げる構成です（①自分を知る→②伝える→③聴く→④理解する→⑤対立を解決する→⑥説得する）。学級や学年に合わせて回を選んでください。

回	映画	学べる力	目安
1	コーダ あいのうた	自分の気持ちを伝える	12歳以上～
2	マイ・インターン	相手の話を聴く	中学生～
3	セトウツミ	会話のキャッチボール	中学生～
4	ブレイクファスト・クラブ	相手を決めつけない	高校生～
5	タイタンズを忘れない	対立する相手と話す	中学生～
6	42 ～世界を変えた男～	不公平な状況でも自分を保つ	高校生～
7	リンカーン	相手を説得する	高校生～
8	アイ・フィール・プリティ！	自分を肯定する	中学生～

8 参考資料（主な出典）

映画『コーダ あいのうた』公式サイト（配給：ギャガ） <https://gaga.ne.jp/coda/>

Wikipedia「コーダ あいのうた」 https://ja.wikipedia.org/wiki/コーダ_あいのうた

Apple Newsroom「Apple's "CODA" wins historic Oscar for Best Picture」（第94回アカデミー賞）

Guinness World Records「First deaf female to win an Oscar for acting」（マーリー・マトリン）

作品：映画『コーダ あいのうた』（2021年、監督シアン・ヘダー）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。